

<過去 2 週間の動き>

(11 月 30 日～12 月 13 日)

USD/TRY: 13.7000～14.9900

TRY/JPY: 7.79～9.05 (参照値)

過去 2 週間のトルコ・リラ相場は、下落。この間起きた最も注目すべき出来事は、1 日、3 日、10 日、13 日と出動したトルコ中銀によるリラ買い為替介入。近年、国営銀行経由で実施した介入と異なり、中銀が直接介入し、その度にその事実を公表した。リラの主な買い手が中銀だったのに対し、この間の売り手は、非居住者の機関投資家が主役と推測された。トルコ中銀の発表した 12 月 3 日までの週次統計からは、居住者の外貨預金残高に目立った変化はなかったし、本邦証拠金取引会社の日次統計(12 月 10 日まで)にも、極端な建玉の変化は読み取れなかった。一方で、非居住者のトルコ株(2,278→1,947 億リラ)、トルコ国債(497→375 億リラ)保有残高は、2 週間(11 月 22 日～12 月 3 日)で合計 453 億リラ減少。統計発表の時差があり、タイミングはずれるものの、この間の非居住者投資家からのリラ売りを推測するのに有力な情報と言えよう。他に目立った出来事としては、1 日、エルバン財務省が辞任、後任にネバティ財務次官が指名されたこと、そのネバティ新財務相が、12 日、「利上げはしない」と表明したこと、大手格付会社の一部が、10 日、トルコ国債格付見通しを中立的から格下方向に切り下げたことなどが挙げられた。13 日発表されたトルコ 10 月経常収支が 31.6 億ドルの黒字と市場予想を上振れたのは、リラに取っては支援材料だったはずだが、3 日発表されたトルコ 11 月 CPI の上振れ(こちらは悪材料か)と合わせて、リラが気に掛けた様子は読み取れなかった。

<過去 2 週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
11/30	7:00	GDP(前年比)	Q3	+7.4%	+7.4%	+21.7%
12/3	7:00	CPI(前年比)	11 月	+21.31%	+20.70%	+19.89%
12/10	7:00	期待インフレ率(12 ヵ月)	12 月	+21.39%		+15.61%
	7:00	失業率	10 月	11.2%		11.4%r
12/13	7:00	経常収支(USD)	10 月	+3.16bn	+2.50bn	+1.67bn
	7:00	鉱工業生産(前年比)	10 月	+8.5%	+8.6%	+8.9%
	7:00	小売売上高(前年比)	10 月	+15.2%		+17.2%r

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう 1 週間の見通し>

(12 月 14 日～12 月 20 日)

USD/TRY: 13.500～14.500

TRY/JPY: 7.85～8.55

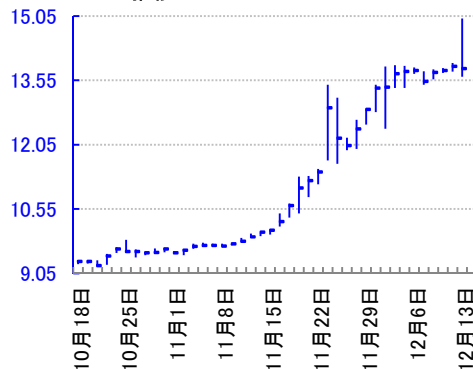
向こう 1 週間のトルコ・リラ相場は、「荒っぽい横ばい」を予想。非居住者によるトルコ国債投資残高が、ウイサル元総裁更迭(20 年 11 月)でも、アーバル前総裁更迭(21 年 3 月)でも割り込まなかった 500 億リラ水準を明確に底割れた事実は重い。しかし、一方で、同株式投資は 2,000 億リラ水準をろうじて維持しており、リラ建てで見ると現地株価指数は大きく続伸している(ドル建てで見ても足元は反発している)。トルコ中銀の外貨準備は、純外準残高から為替スワップなど(民間銀行からの借入)を除くとマイナスと言われているが、仮に、この保有国債残高がゼロになったとしても、残り 375 億リラと思えば(注 1)、もはや中銀に買い向かえない規模ではなかろう。この間、カタールとのスワップ協定が期間延長されたり(8 日)、経常収支が 3 ヶ月連続で黒字を計上したり(上述)といった事実は、こうした楽観を多少なりとも裏付けよう。エルドアン大統領とその周辺が、利下げ強行、リラ安/インフレ放置、リラ買い介入に、おそらく財政バラマキという組み合わせで 2023 年の選挙を乗り切れると判断した根拠には、このあたりの事情もあると思われる。ただし、同じ資金流出が株式市場で起これば状況は余程深刻になるはず。また、与党公正発展党(AKP)を閣外から支える民族主義者行動党(MHP)の支持率が、一部世論調査で 7%(注 2)を割り込んだのは、大統領にとって大きな誤算に違いない。中期的には、この誤算が、エルドアン大統領による「大胆な」行動(注 3)を誘う可能性は警戒される。

<向こう 1 週間に発表予定の主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
12/15	8:00	財政収支(TRY)	11 月			-17.4bn
12/16	11:00	1 週間物レボ金利			14.00%	15.00%

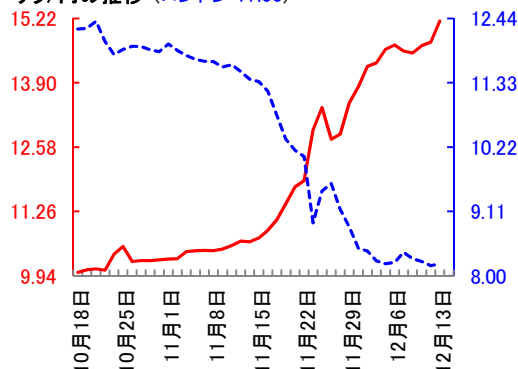
(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

USD/TRY の推移 (日足/ロンドン 7:00～17:00)



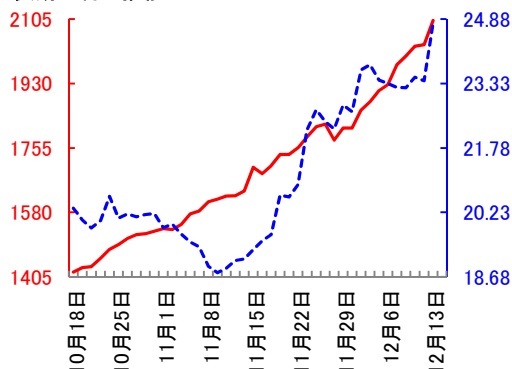
バスケット/リラの推移 (トルコ中銀公示)

リラ/円の推移 (ロンドン 17:00)



株式市場の推移 (ISE 100 種指数)

長期金利の推移 (5 年スワップ金利)



(資料: トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

トルコ関係主要経済指標

1 週間物レボ金利		15.00%
成長率(GDP/前年比)	Q3	+7.4%
失業率	10 月	11.2%
消費者物価(前年比)	11 月	+31.31%
鉱工業生産(前年比)	10 月	+8.5%
小売売上高(前年比)	10 月	+15.2%
貿易収支(USD)	10 月	-1.44bn
経常収支(USD)	10 月	+3.16bn

(注 1) 換算レートを @14 とすると、26.8 億ドルでしかない

(注 2) 従来 10%であった議席確保のための最低得票率を 7%に引き下げる選挙法改正を目論んでいるところ

(注 3) 例えば国外における軍事作戦など

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。